

俳句

え
ら
へ
き
し
ょ
う
江良碧松



田布施町
(1888～1977)

江良碧松（本名、松蔵）は、自由律俳誌『層雲』の草創期にデビューした自由律俳人で、種田山頭火、久保白船とともに、『層雲』の周防三羽ガラスとして並び称された。郷里から離れず、農業にこそしみながら、平凡な日常の中で育まれた詩情を香り高い句として結実させたその生きざまは、旅から旅へと放浪した山頭火とは対照的である。大正末期から戦時中へかけて筆を折った時期もあったが、戦後再び復活し、円熟した句風を確立した。

（久光良一）

【主な著作】

句集『松吹く風』（田布施町、昭和49年）